

130225 コケと地衣類

少し標高の高いところへ行くと、まだまだ「雪」が残っています。

足もとに気をつけながら山道を歩いていると...

切り株に積もった雪の間から、何やら赤いツブツブが顔を出していました。

近づいてよく見ると、先っぽの赤い「キノコ」か「コケ」のような植物であることに気づきました

彩りに乏しいこの季節、このような「ささやか」な赤色でも、結構目を引きますね。

撮影してきた写真をもとに、図鑑で調べてみると、ハナゴケの仲間の「コアカミゴケ」という種のようにです。

名前に「ゴケ」とありますので、「キノコ」ではなく「コケ」だったのか、と思っていたのですが、実は「地衣類」(ちいるい)の仲間になるそうです。

でも「地衣類」と言われても、「コケ」とはどのように違うのでしょうか...

外見が似ている「コケ植物」と混同されがちですが、調べてみると、「菌類」と「藻類」の共生体で、単一の生物のようにみえるものの総称を「地衣類」と呼ぶのだそうです。

ちなみに、「コアカミゴケ」の先っぽの赤色の部分は、「子器」(しき)という、種子植物の「花」にあたる組織だそうです。

また、別の箇所でも、コケ植物の一種「スギゴケ」の群落を見つけました。

雪解けの水滴を身にまとったその姿には、何とも神秘的な美しさを感じてしまいました...

写真 ・ : コアカミゴケ 地衣類

切り株に積もった雪の間から、顔を出していました。

写真 ・ : スギゴケ コケ植物

3枚目の写真には、植物体の間から、直立する茎のようなものが見えていますが、これは孢子嚢(ほうしのう)ですね。







